

antileak newspaper

vol.05

2023 SPRING



アンティリーク通信



学校法人北里研究所
北里大学病院

神奈川県相模原市南区に位置する北里大学病院は、1200の病床数を持つ日本屈指の大規模医療機関です。「最先端の先進医療の提供」と「地域医療への貢献」を責務としてチーム医療を推進し、市民の健康で幸福な生活の実現に努めています。

北里大学病院



<https://www.kitasato-u.ac.jp/khp/>



CONTENTS

インタビュー 学校法人北里研究所 北里大学病院 (神奈川県)

テーマ

アンティリーククラウンAL接続セットを導入・運用して

Interview

アンティリーククラウンAL接続セットを 導入・運用して

学校法人北里研究所 北里大学病院(神奈川県)



株式会社コバヤシ

2020年より販売を開始したアンティリーククラウンAL接続セット(以下、アンティリーククラウン)は、輸液ポンプメーカー純正輸液セットと接続することで、投与中の抗がん薬曝露を防止する製品です。今回は、2020年8月よりアンティリーククラウンを運用されている北里大学病院を訪問し、導入時の取り組みや、導入後に実感した製品の魅力などについてお話をうかがいました。

インタビューおよび編集: 有限会社エムリンク

今回取材に答えていただいた方々



八柳 千春 さん
Hachiyanagi Chiharu
看護部
がん化学療法
看護認定看護師



高橋 かおる さん
Takahashi Kaoru
看護部
がん化学療法
看護認定看護師

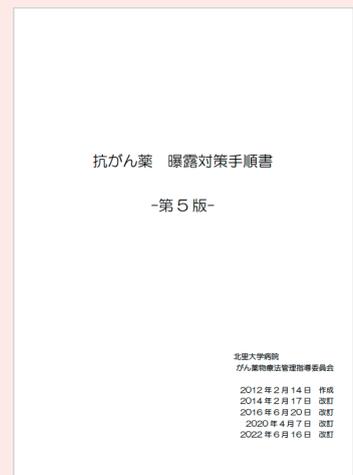


佐々木 寿子 さん
Sasaki Hisako
薬剤部
日本医療薬学会認定
がん専門薬剤師

1 曝露対策を始めた経緯と、当初の取り組みについて教えてください。

八柳さん・高橋さん 当院には、院内機関のがん薬物療法管理指導委員会が作成している曝露対策手順書があります。その第1版が完成した2012年から、抗がん薬の投与管理に対する曝露対策を開始しました。当時、前任のがん化学療法看護認定看護師が集学的がん診療センターの曝露環境調査を実施し、患者様用トイレやナースカートなどから抗がん薬が検出されました。それを受け、薬剤師と共に曝露対策に取り組むようになったと聞いています。がん専門薬剤師の佐々木さんは現在、がん薬物療法管理指導委員会の委員を務め、定期的に行われている**曝露対策手順書**の改訂などに力を尽くしてくれています。

曝露対策手順書の表紙



佐々木さん 薬剤部では抗がん薬による職業性曝露の問題を深刻に受け止め、2012年以前から安全キャビネットを使用した無菌調製を開始し、2012年に揮発性抗がん薬3剤について無菌調製加算が認められるようになった際にClosed System Drug Transfer Device(閉鎖式薬物移送システム)を導入しました。この3剤は閉鎖式混合デバイスを使って調製し、曝露のリスクが高いプライミングを看護師が行わなくてもいいように、ルートに補液を充填した状態で払い出していました。

2 アンティリーククラウンを導入するまでに、どのような苦勞がありましたか。

八柳さん・高橋さん これまでの他社製の輸液ポンプを引き続き使用したかったので、それが可能なアンティリーククラウンに魅力を感じ、導入を検討することになりました。その過程で資材課から「現状よりコスト増になるのでは」との指摘を受けました。そこで、前任の看護師長の協力のもと、従来の輸液セットを使用した場合とアンティリーククラウンに切り替えた場合の3ヵ月分のコスト差を試算。

アンティリーククラウンの方がコスト減につながるという試算結果を導入検討委員会で提示し、理解を求めました。

佐々木さん アンティリーククラウンが導入できたのは、医療材料委員会の委員である医師の1人が後押ししてくれたことも大きかったです。投与管理における曝露の危険性を十分に認識した上で、製品の導入にも理解を示していただき、事務方の了承を得ることができました。

3 アンティリーククラウンの導入にあたって、工夫したことや注力したことは何ですか。

八柳さん・高橋さん まずは集学的がん診療センターに製品を試験導入し、実際に投与する際にどのような困りごとが発生するのかを検証しました。また、コロナ禍前は勉強会も積極的に実施し、実際のレジメンを使ってシミュレーションを行うなど、個人の理解度や手技習得レベルに合わせて丁寧に指導しました。

「患者様がトイレに行く時はどうする?」「エアが入った場合の対処法は?」といった疑問や不安の声に対しては、一つ一つ実証してマニュアルを作成。何度も加筆・修正を重ね、どんどんと内容が濃くなっています。



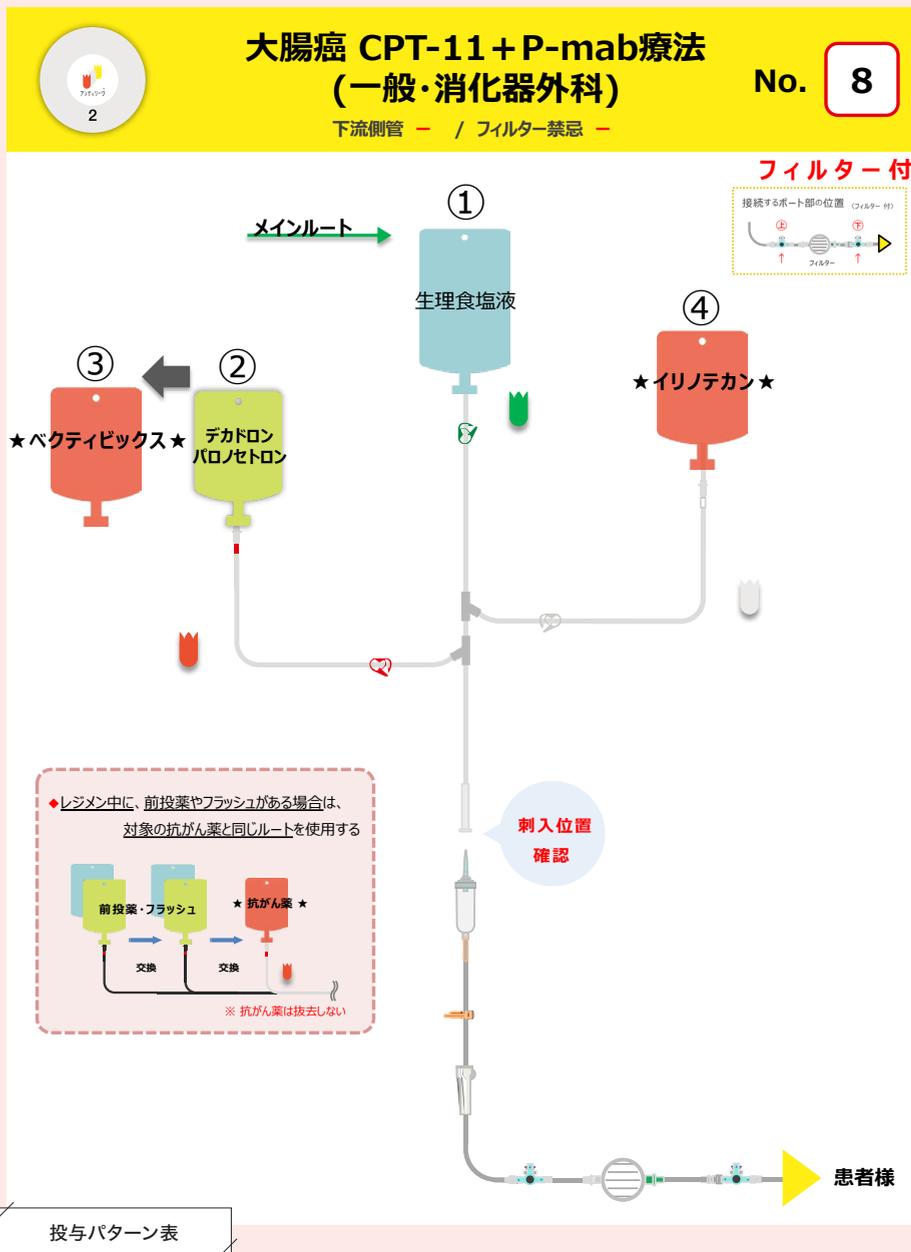
勉強会の様子

佐々木さん 薬剤部ではレジメンの組み直しを行いました。

以前はプライミング用の生理食塩液100mLと、配合禁忌薬等で使用するフラッシュ用の生理食塩液をそれぞれ分けて準備していましたが、アンティリーククラウン導入に伴い、全てのレジメンを必要容量に合わせた250mLの生理食塩液へ変更を行いました。当院には膨大な数のレジメンがあるので、整理等も含め、かなりの時間をかけて取り組みました。

4 コロナ禍での勉強会はどのように実施しているのですか。

八柳さん・高橋さん コバヤシ提供の操作DVDを活用しています。各病棟の全スタッフにDVDを観てもらった後に私たちが病棟を訪問し、その病棟で使用頻度の高いレジメンを用いて手技について説明したり、デモ品に触れて操作を体験してもらったりしています。また、説明時には薬剤師が作成してくれている**投与パターン表**も使用し、イメージが湧きやすいようにしています。現在はさまざまな病棟に導入を拡大している最中なのですが、アンティリーククラウンは操作がシンプルなので、すぐに手技をマスターしてくれるスタッフも多く、助かっています。



⑤ 貴院は1日あたりの症例数が非常に多いそうですが、
円滑に業務を進める上で大事にしていることは何ですか。

八柳さん・高橋さん 現在、病棟の症例数は1日あたり30例前後ですが、外来は1日あたり平均して80～90例程度で、予約件数の多い日は120例に及ぶ事もあります。現場は息つく暇もないのですが、患者様にはスムーズかつリラックスして治療を受けていただくため、チーム医療に力を注いでいます。特に薬剤師との連携は緊密です。毎朝、看護師のリーダーと集学的がん診療センターをラウンドする薬剤師が当日の患者様対応について打ち合わせをし、その内容は調製室の薬剤師とも共有しています。また、患者様が問診・診察を受けるまでに薬剤師がレジメンをチェックして、カルテに記入しておいてくれることも、業務の円滑化につながっています。



集学的がん診療センター

佐々木さん 集学的がん診療センターは60床あるのですが、患者様にはかなりの待ち時間が発生してしまいます。できる限り待ち時間を短縮するために、多剤のレジメンについては、ある程度調製ができた段階で先出しする事や、前日までにオーダー内容をチェックし、可能な範囲で疑義照会をおこなっておく等、看護師たちが現場の状況を見ながらうまく時間調整ができるように工夫を凝らしています。今後も外来の症例数は増加していくと思うので、待ち時間の解消については引き続き努力が必要だと感じています。

⑥ 実際にアンティリーククラウンを運用してみて、
スタッフの皆様の反応はいかがですか。

八柳さん・高橋さん 導入当初は製品コンセプトの「抗がん薬輸液バッグを外さない投与方法」に少し戸惑ったスタッフもいて、多剤を投与する場合に空になった輸液バッグがいくつもぶら下がっている状態を見て、あまり気持ちが良いものではないと感じていました。でも、今ではその光景もすっかり見慣れて、違和感がなくなったようです。また、導入初期はクレンメを閉じ忘れるインシデントが3、4件報告されましたが、今はほぼありません。

佐々木さん 薬剤師が手技で行っていたプライミング作業を、アンティリークは自動でプライミングをしてくれる機能（オートプライミング機構）があるので、薬剤師がルートのプライミングを行う必要がなくなりました。

⑦ アンティリーククラウン導入後に感じたメリットと、今後の課題について教えてください。

八柳さん・高橋さん 一番のメリットは、投与管理が非常に簡単になったことです。アンティリークは側管ルートごとにクラウンが赤・白・黄色と色分けされており、童謡「チューリップ」の歌詞の通りに使っていけばいいので、以前の器具と比べると投与手順が分かりやすくなりました。慣れてしまえば作業が楽で、業務の効率化につながっています。

製品の導入前と導入後に、集学的がん診療センターと抗がん薬調製室で曝露調査を行い、また、病棟への使用拡大の際にも曝露調査を実施し環境曝露が低減した結果が出ています。曝露の危険性が低くなったことも大きなメリットと考えています。今は安心して日々の業務に取り組んでいます。今後は、連日投与のレジメンや、同時に2剤、3剤を投与するレジメンについても、アンティリーククラウンで対応できるか検討しなければならないと考えています。

佐々木さん この場合は投与パターン表も複雑になり、作成するのが難しいのですが、みんなで話し合いながら進めていきたいと思っています。

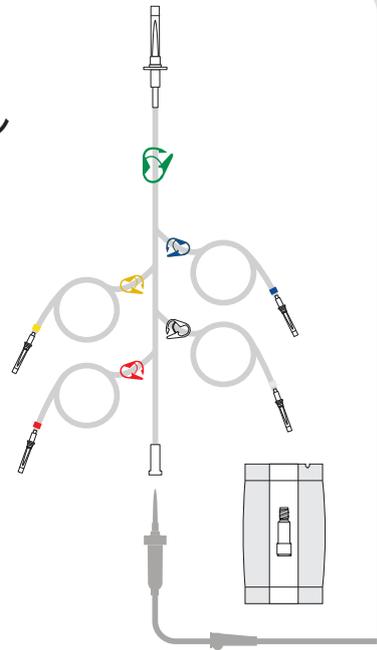
抗がん薬投与用 一体型接続セット

アンティリーク[®] Crown クラウン

“アンティリーククラウンAL接続セット”

アンティリーク クラウンAL接続セットは、多様化する各社輸液ポンプに対応すべく開発した製品です。ご使用中の輸液セットでも外さない投与が可能です。

抗がん薬曝露対策が進んでいる欧州諸国内で一般的な、『漏らさないために外さない』という投与スタイルに、日本国内の医療体制事情を鑑み、『抗がん薬でプライミングを行わない』、『投与後の輸液バッグを外さない』、『投与手順の標準化を行える』製品を目指し開発しました。製品名の『antileak(アンティリーク)』は、英語の『anti(反対)』と『leak(漏れ)』から由来する造語であり、『一滴たりとも薬液を漏らさない安全な製品をお届けする』と言う弊社の決意表明でもあります。



販売元



〒651-0084 兵庫県神戸市中央区磯辺通2丁目2番16号 三宮南ビル7階
TEL: 078-414-8282 FAX: 078-414-8281 <https://www.kbjapan.co.jp>

製造販売元



フォルテ グロウ メディカル 株式会社 〒327-0003 栃木県佐野市大橋町1647番地
<http://www.fgm.co.jp>

販売名: AL接続セット

製品名: アンティリーククラウン

一般的名称: 輸液用延長チューブ

医療機器届出番号: 09B1X00004000164

クラス分類: 一般医療機器